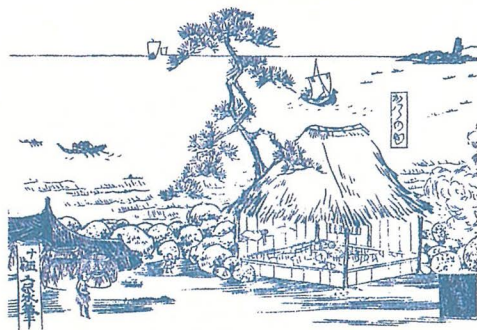


熱海湯
七

河原湯 Kawara yu

その
一



(熱海温泉図集)

このあたりを東浜といい、道もなく石のごろごろした河原で、温泉が絶えず豊富に湧き出ている村人の入浴場でした。湯治客は大湯の源泉が主に使われ、ほかの源泉も限られた家のみが使用のお湯で、熱海村の農民や漁師や近郷の人達が自由に入浴できるのは、この「河原湯」だけでした。寛文6年(1666年)小田原城主稲葉美濃守が、村民のために浴室を設けてその屋根を瓦葺としたため、「瓦湯」と称したとも言われています。この湯は神経痛やリウマチなどに効能があり塩分が多く、人が入ると透明な湯が白く濁るほどであったといえます

●湯へ遊〜バス「サンビーチ」バス停下車 徒歩2分(金鶴支店横)

案内板の横の
記念スタンプを
どうぞ

熱海湯
七

佐治郎の湯 (目の湯) Sajirō no yu (Me no yu)

その
二



(熱海温泉図集)

佐治郎という者の邸内にあったことから「佐治郎の湯」といわれました。また、この源泉は明治のころは上杉助七という者の邸内にあり、のち新かど旅館の所有になったので「新かどの湯」ともいわれました。この湯は火傷にも良いが眼病にもよく効くといわれ、別名を「目の湯」ともいいました。

●湯へ遊〜バス「サンビーチ」バス停下車 徒歩7分(銀座通りスルガ銀行横)

案内板の横の
記念スタンプを
どうぞ

熱海湯
七

清左衛門の湯 Seizaemon no yu

その
三



(熱海温泉図集)

昔、農民の清左衛門という者が馬を走らせて、この湯壺に落ちて焼け死んだので、その名が付いたといえます。明治までは、昼夜常に湧き出たえることがありませんでした。人が大きな声で呼べば大いに湧き、小さな声で呼べば小さく湧き出たといわれています。

●湯へ遊〜バス「サンビーチ」バス停下車 徒歩5分(旅館古屋前)

案内板の横の
記念スタンプを
どうぞ